

下伊那地方フロラ新知見 III

浅野 一 男

Kazuo Asano: New plants found in Shimoina District, Nagano Prefecture III

22. ヤマイワカガミの紅花品 A new form of *Schizocodon intercedens* Yamazaki

東海地方の静岡・山梨・愛知各県と長野県南部に分布するヤマイワカガミは、ヒメワカガミ *S. ilicifolius* の変種として扱われることもあり、両者は葉の大きさと鋸歯の数と形によって区別される。花は大きさに違いはあるが基本的構造に差はない。ヤマイワカガミの花の色については、大井次郎著「日本植物誌顕花篇（改訂増補新版）」（1975）、北村四郎他著「原色日本植物図鑑（上）」（1957）および「日本の野生植物Ⅲ」（1981）中の山崎敬の筆になるイワウメ科の記述などを初めとする日本の著者たちによる戦後の植物誌あるいは植物図鑑は、いずれも白色まれに微紅色を帯びるものがあると説明している。

筆者は1964年、「植物研究雑誌」に下伊那にもヤマイワカガミが分布していることを報告した。その後の調査で分布が次第に明らかになるにつれ、紅花のものばかりなのに気づいた。そこで花期が来るたびに注目してきたが、下伊那には紅花品のみで白花

品は存在しないことが明らかになった。葉の形は図1で見るように、先端がその両側の鋸歯より高く突き出ている、まぎれもなくヤマイワカガミの形である。葉や花などは常品と変わらないので、これを一品種として認め、ベニバナヤマイワカガミ（forma *rubiflorus* Asano）の名を与える。近く、正式発表する予定である。

23. ウスヒメワラビ *Acystopteris japonica* (Luer ss.) Nakai

東北地方南部から屋久島まで分布し、比較的暖地に多いシダであるため長野県では稀で、県西部の大町市と木曽郡から記載されているに過ぎない。筆者は1986年8月2日に飯田市大平標高1180mの林内で採集した（no. 89456, SHIN）。また、1988年7月17日には愛知・岐阜両県に境を接する下伊那郡根羽村堂の入820mの林内で、裸葉の個体（no. 90527）を採集した。伊藤洋博士に見ていただいたところこれもウスヒメワラビであることがわかった。最近、飯田市産の標本が信州大学に蔵せられていることが判明した。御教示を賜った伊藤洋博士に感謝申し上げる。なお、筆者採集の標本は氏名を省略した。

24. タカネサトメシダ *Athyrium pinetorum* Tagawa

本州では主に中北部の亜高山帯の林内に産するシダで、長野県でも中北部に分布が偏っている。下伊那からの報告は少なく、僅かに赤石山脈の三伏峠と聖岳を知るのみで、木曽山脈からは未知であった。1988年7月29日、下伊那郡高森町の依頼で遊歩道沿いの植物調査を行った際、同町田沢山の寺880～980mの林内で本種を採集した（no. 89927）。このような低所にも生ずるものであることがわかった。御教示をいただいた伊藤洋博士に感謝申し上げる。

25. ナンブアザミ *Cirsium nipponicum* Makino

下伊那郡平谷村で秋咲くアザミのうち最も多いのはスズカアザミである。アズマヤマアザミも稀ではない。1980年8月17日、同村柳平960mの林縁草地で、総苞片が長く強く反り返り、長い刺針がついている見慣れないアザミを採集した（no. 90510）。北村四郎博士に見ていただいたところナンブアザミ

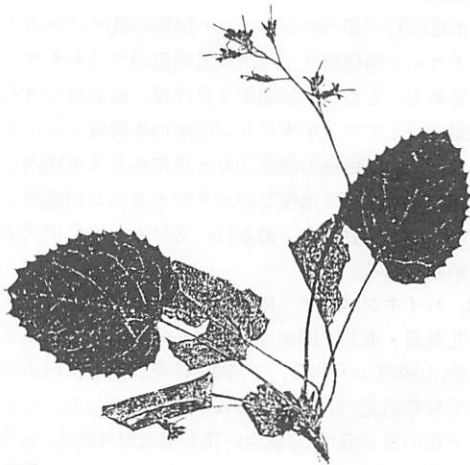


図1 下伊那産ヤマイワカガミ
これは上郷町姫宮の標高690mの林内で、1988年5月22日採集したもの（浅野一男 no. 8914, SHIN）。花はすでに落ちていたが、赤い花である。

であった。ただし、常品より刺針が長いとの御説明をいただいた。ナンブアザミは長野県内に広布しているが、下伊那は分布の空白地帯で、信州大学所蔵の大鹿村産の標本を知るのみであった。最近筆者所蔵の標本を整理していたところ大鹿村南山牧場1200 mで採集した本種が出てきた (no. 87502, Sep. 15, 1985, SHIN)。

平谷村は木曽山脈の南端に位置し、岐阜県に隣接する村である。北の方から木曽山脈沿いに続いて分布しているように思われるので、今後郡北西部からの発見が期待される。御教示をいただいた北村四郎博士に感謝申し上げる。

26. マルバケスミレ *Viola collina* Bess.

1988年7月3日、長野県最南端の村、天龍村向方800 mの林内で、アオイスミレに似ているが匍匐枝がなく、葉の先がやや尖っているスミレを採集した (no. 90530)。国立科学博物館筑波実験植物園の橋本保氏に見ていただいたところ、マルバケスミレとの御教示をいただいた。本種は長野県内に稀なようであり、下伊那からは浜栗助 (1970) が「下伊那のスミレ」の中で大鹿村産標本があることを記しているほかに知見がない。橋本保氏に感謝申し上げる。

27. イガオナモミ *Xanthium italicum* Moretti

伊藤文男 (1975) の「下伊那の帰化植物」によると、本種は郡北部飯田盆地内3ヶ所の天龍川原に産すと報告されている。1980年8月22日に筆者は天龍村坂部290 mの路傍の荒地で採集した (no. 90525, SHIN)。現在下伊那で勢力をふるっているのはオオオナモミであるが、イガオナモミの生育も意外と多いのではないかと推測される。本種はいがの面や嘴、鉤刺に鱗片状の毛が生えているから、注意してみればオナモミ属の他の植物から容易に区別できる。今後の調査を期待したい。

28. ケアブラチャン *Lindera praecox* (Sieb. et Zucc.) Blume var. *pubescens* (Honda) Kitam.

葉裏中肋および側脈上に開出毛があり、果柄が母種よりも長いことで区別されるケアブラチャンが、下伊那にも存在することが最近わかった。それはあと2 km程で愛知県境になるという、天龍村大河内の部落と大河内峠の間、標高960 mの所である (no. 90093, Jul. 3, 1988, SHIN)。大原準之助は「津具村の植物」(1981)の中で、大河内の南隣の愛知県北設楽郡津具村から本種を報じているから、下伊那でも天龍村から根羽村までの県境地帯には、新たな産地がある可能性が高い。

29. ヒメクロモジ *Lindera lancea* (Momiya) H. Koyama

小山博滋著「クロモジ群の分類と分布」(1987)に記されたヒメクロモジの長野県内の分布域は木曽郡だけである。しかし、愛知県奥三河地方からの報告があるので、下伊那での分布に注意を払っていたところ、最近次の産地を確認した。

天龍村大河内960 m (no. 90092, Jul. 3, 1988, SHIN)、根羽村堂の入820 m (no. 90037, Jul. 17, 1988, SHIN)、同村浅間橋700 m (no. 88821, Aug. 23, 1988, SHIN)、阿南町旦那区大村殿林820 m (no. 87979, Aug. 2, 1984, SHIN)。

30. イワシャジン *Adenophora takedae* Maki-no

下伊那産のイワシャジンは千代村 (現飯田市千代) 上万古川で採られた標本 (no. 16291, 勝又恒一 sep. 16, 1934, TI) を知るのみで、確実な生育地は確認されていなかった。1988年10月26日、天龍村日代の標高640 mばかりの地で自生を確認した。標本 (no. 89771) は信州大学に納めてある。

31. アキチョウジ *Rabdosia langituba* (Miq.) Hara

岐阜県以西に分布するといわれているアキチョウジが下伊那でも発見された。1988年9月30日、根羽村浅間橋700 mで採集した。標本 (no. 89078) は信州大学に納めてある。

32. セリバオウレン *Coptis japonica* (Thunb.) Makino var. *dissecta* (Vatabe) Nakai.

本誌20号で述べたように、下伊那の低所に分布するオウレン属植物は、花が淡黄緑色のウスギオウレンである。ところが1988年4月17日、根羽村で村人の案内をえてウスギオウレンの産地を調査していたところ、田島地籍の標高700 m程にあるスギ林内で、白花で葉が2回3出複葉のセリバオウレンが群生しているのを発見した。標本 (no. 88418) は信州大学に納めてある。

33. ハイキンボウゲ *Ranunculus repens* L.

北海道・東北・関東地方に分布するハイキンボウゲを、1988年6月18日、三信国境にそびえる茶臼山の根羽村側斜面1300 m附近の牧草地で発見した。ちょうど花の真っ盛りで、黄色い花が陽に照り映え、あたかも絨毯を敷きつめたようでもごとであった。長野県からは戸隠村産の標本が信州大学の標本庫にあるだけで、ほとんど知られていない。標本 (no. 89219) は信州大学に納めてある。生育地の面積はかなり広いが、牧場なので国内帰化と見るべきであろう。